

海洋島

第5巻 第7号 (通巻44号)

東京都小笠原水産センター

2004年 1月 21日発行

〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

04998-2-2545

Fax. 04998-2-2546

小笠原のモクズガニは固有種か？

小笠原諸島は「海洋島」*1であり、陸上の植物や貝類、昆虫などに数多くの固有種が存在しています。一方、海に目を向けるとどうでしょう。小笠原の海を代表するチョウチョウオの仲間「ユウゼン」(写真1)の場合、沖縄や相模湾などでも存在が確認されていることから、海洋島とはいえ、海はつながっているのだということを実感させられます。



では、川に住む生物はどうでしょうか。淡水に依存する生物が、いつ頃、どこから、どうやってこの地にたどり着いたのかを考えると、とても不思議に思うのですが、海洋島の河川に住む生物が、長い年月を経ることにより固有種となる可能性は高いと考えられます。水産センターでは、平成14年より父島の八瀬川^{やつせ}で、モクズガニの調査を行ってきました。このモクズガニについて、小笠原の固有種である可能性が出てきましたので、ここに報告したいと思います。

モクズガニは、日本全域、およびサハリンから台湾沿岸にまで広く分布し、通し回遊²を行うイワガニ科のカニです。以前に父島のモクズガニは九州地方のものと比較すると非常に大きく成長することを海洋島(通巻32号)でも紹介しましたが、この他にも何点か異なる点を確認されました。まず父島のモクズガニは繁殖期が短いという点です。九州地方では9月から翌年の6月にかけての10ヶ月近くにもおよぶのに対し、父島では2月から6月にかけての5ヶ月ほどしかありません。またハサミに生えた、名の由来ともなっているふさふさした毛は、モクズガニの大きな特徴の一つですが、ふつう大型の雄では、この毛がハサミの周りをぐるっと一周しているのに対し、これまでの調査では、父島のも

のには、このように毛が生えている個体は確認されておらず、どんなに大きな雄でもハサミの下面では、毛がつながっていません(写真2)。また、最近の東京海洋大学の研究によると、小笠原のモクズガニは本州や沖縄のものとは比べ、遺伝的に大きく異なることが明らかにされています(平成15年日本甲殻類学会発表)。これらの違いは小笠原のモクズガニが小笠原の固有種である可能性を示しています。

現在、小笠原の川や磯に生息する生物の多くは、本州や沖縄の共通種であるとされていますが、今後調査・研究が進むことで、モクズガニのように固有種である可能性も出てきます。これらの生物は、小笠原の世界遺産への登録やエコツーリズムを推進していく上で、非常に貴重な資源となりうるものだと思います。



写真2 雄のモクズガニ(甲幅10cm)

*1 島の誕生以来一度も大陸とつながったことのない島のこと。これに対し過去に大陸と陸続きだったことのある島は大陸島などと呼ばれます。

*2 ふ化から繁殖までの生活史のうち、ある段階で淡水域と海水域を行き来すること。例) サケ、ウナギ等